

WFITN2017 に参加して

田上 秀一

WFITN 2017 に参加させて頂きました。

WFITN (World Federation of International Therapeutic Neuroradiology)は、脳血管内治療の普及と発展を目的として、1990年に設立、開催が始まった世界の脳血管内治療学会で、2年ごとに世界各国で開催されます。第14回開催となる今回はハンガリーの首都、ブダペストで2017年10月16-19日の期間で開催されました。本学会は治療技術やデバイス、画像診断技術の発達と普及により、急速に発展している脳血管内治療分野において、その基本的知識から最新の知見を発表、共有することを目的とするとともに、若手医師や看護師、放射線技師との情報の共有にも重きをおいた学会となっています。

今年の開催は東欧の観光都市であるブダペストでの開催ともあって、発表演題は講演発表が約300題、電子ポスター発表が約700題と、非常に多くの参加と演題応募と参加がありました。本学会のプログラムは、1日目がStroke、2日目Stroke & Spine、3日目AVM and miscellaneous、4日目Aneurysmとテーマごとに分かれています。テーマ構成をみて分かる様に、ほんの数年前までは討論の中心であったAneurysmは最終日の半日強で終わる内容で、現在の最も熱い領域はStrokeとなっています。これは急性期虚血に対する機械的血栓除去術が、血栓吸引システムからステント型血栓除去システムへと進化し、本邦でも5年前より認可されるとともに、2015年にオランダより発表された内科的治療(t-PA投与)とステント型血栓除去システムをRCTで比較した“MR CLEAN”論文で、血管内治療の治療成績が有意に良かったとの報告がなされたからに他なりません。以降、その有用性が再認識されて全世界に普及しています。Strokeのセッションでは初日より会場を埋める聴講者の前で、活発な討論が繰り広げられました。

もちろん、その他のAVM/AVF、spine、aneurysmのセッションも多くの発表と盛んな討論がなされました。私の発表は、大分大学在籍時代の症例をまとめた報告で、テーマは前頭蓋窩硬膜動静脈瘻でした。本領域の硬膜動静脈瘻の治療は、以前は外科的切除が主流となっていた疾患ですが、以前はリスクがあるとされた眼動脈領域の流入血管も、現在のデバイスの進歩により超選択的な細径カテーテルの挿入と塞栓が可能となり、近年塞栓術の報告も増えてきています。我々の経験した5症例も全例で眼動脈の分枝が関与し、4例で完全塞栓が得られました。本治療法は、3D血管撮影による治療前の正確な血管構築の把握と、超選択的な主流入動脈の塞栓により、良い治療成績が得られるものと思われま

本学会中に、観光も少し楽しませて頂きました。ブダペストには町の中心にドナウ川が流れ、川を挟んでペシュトという商業の中心と、ブダという城がある古い町が合併してできた都市です。川沿いには美しい建造物が建ち並び、遊覧船を使ったドナウ川クルージングが人気です。本学会のレセプションパーティーも船上で開催されましたが、個人的にも再

度クルージングに参加しました。町のシンボルとなっているブダ城も荘厳で美しい建物であり、内部は博物館として利用されています。ハンガリー料理も名物の一つであり、肉や野菜を煮込んだグヤーシュが有名の様ですが、その他の料理も比較的あっさりした味付けで、日本人にも食べやすいものばかりでした。ワインも質の良いものがあり、貴腐ワインの Tokaji (トカイ) ワインは有名でしょうか。もちろん毎食ごとにワインも楽しませて頂きました。

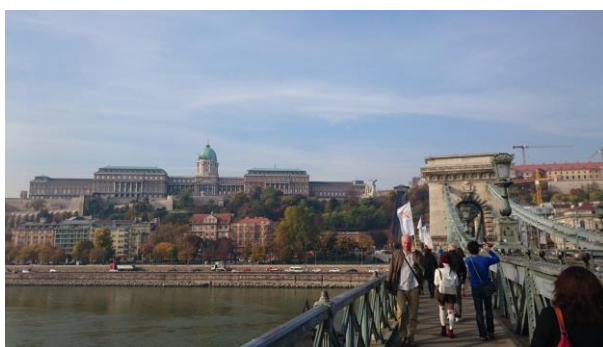
滞在期間を通して、ややタイトなスケジュールでしたが、発表、勉強、観光、投票（→誘致成功）と充実した日々でした。最後になりましたが、このような機会を与えてくださった安陪教授をはじめ、他の教室の先生方に感謝いたします。



電子ポスター前にて



Welcome reception の船上パーティ。知人の韓国、ベトナムの脳血管内治療医と。



橋および夜の船上からみたブダ城